

# 平成28年度 伊那市立手良小学校評価表

学校関係者評価；(A：十分達成された B：ほぼ達成された C：不十分であった) 自己(項目間相対を加味した到達度)評価 (a：十分達成された b：ほぼ達成された c：不十分であった)

学校教育目標	重点目標(中長期的目標)
○やさしい子 ○かしこい子 ○やりぬく子 ○元気な子	○自己肯定感や表現力を高め、自立的に生きる子ども ～あらかず・よさを知る・かかわる～
	今年度の重点目標
	(1)自己肯定感をもち互いに認め合う人間関係づくりを進める
	(2)自分の思いや考えを進んで表現し、友だちと関わりながら学びを深めていく
	(3)生き物や作物の栽培活動、周囲の人々との交流などの体験活動をとおして「いのちの学習」を進める

総合評価		
○保護者アンケートは匿名性を担保する為に、無記名で(記名する事は可能)封筒に入れ、学校玄関に設置したポストへ投函して頂く方法で実施した。評価数値は例年と大きくは変わらないものの、昨年度より概ね良い評価をしていただいたと言える。		
○保護者のアンケート結果から、どの項目も8割～9割以上の保護者が学校の取り組みに対して「良い」という評価をしていただき、「確かな学力」や「豊かな心」、「健やかな体」の育成ができつつある。4段階評価の「とても良い」が全体的に増加する傾向にあった。児童の評価もほぼ同様の傾向にあり、今後とも子どもの姿を出発点とし、保護者との連携を更に強め、より開かれた学校を目指していきたい。		
○本年度は「授業のユニバーサルデザイン化」について研究を深めた。ユニバーサルデザイン化を実践する中で、認め合い支え合う学級集団づくりを目指し、互いの良さを感じあったり認め合ったりする取り組みを意識的に多く取り入れたことで、自己肯定感を高め、自分なりの表現をする姿が少しずつ増えてきた。		
○一人ひとりの児童の自己肯定感や表現力を高め人間力を育むために、今後も「あらかず」「よさを知る」「かかわる」を目標に、児童とともに、子どもたちの生活を見直していきたい。		
成果と課題	評価	改善策・向上策
(1)「授業のユニバーサルデザイン化」について研究を深めた。通常学級で配慮を要する児童について支援計画を作成し、「できた」「わかった」を多く感じることが出来る授業を目指した。その結果、自己肯定感が育ち互いに認め合う人間関係が少しずつ高まってきたように思われる。	A b	○「授業のユニバーサルデザイン化」の考えが十分理解され全ての場面で実行されているとまでは言えない。来年度も継続し、ユニバーサルデザイン化についての理解を進め、より多くの児童が自己肯定感を感じることが出来る状況を作り出していきたい。
(2)授業の中に発言する機会を意識して設けたり、「授業のユニバーサルデザイン化」により自己肯定感が高まったりする中で、自ら進んで表現したり、友だちとの関わりが深まる傾向にある。反面、相手の思いをしっかりと聞く事が苦手な児童がいたり、固定化された人間関係が強かったりするため、自己主張する姿があまり見られない児童も少なくない。	A b	○本年度は、ICTを利用した遠隔合同授業で5年生を中心に新山小学校との交流を進めてきた。更に他学年においても新山小学校との交流を充実させていきたい。 ○すべての教科・領域において言語活動の位置づけを考慮した授業を展開し、自らの思いを進んで表現する子どもを育てるための指導のあり方を探していきたい。
(3)それぞれの学年で、子どもたちの意見を聞きながら、畑での作物の栽培を進めてきた。収穫後の利用法についても、自分たちで食べる、給食への食材提供、親子レク・保育園との交流等、話し合っ決めていく。また、複数の学年で作物を学校給食に提供し、食物に関する興味が増してきた。来年度はさらに多くの食材を学校給食に提供したい。	A b	○安定的に給食へ食材を提供することは簡単ではない。栽培作物は5月にはわかるため、栄養職員と連携を取り、いつ頃どんな食材が提供できそうか、計画を作成する様検討したい。 ○各学年が人権教育や道徳で「いのち」について学び直す機会を設定する。 ○生き物に関わる学習は少なかったため、来年度は積極的に取り組むことができるよう考えていきたい。

領域	対象	評価項目	評価の観点
教育	教育課程	○教育目標の充実	○学校教育目標実現のための取り組み
		○教育課程の編成	○授業時数や時間割の配当、学校行事の設定等、効果的な編成
	学習指導	○より確かな学力の定着	○子どもたちの「学ぶ意欲」や「コミュニケーション力」「表現力」等を高めるための教材研究や指導方法の工夫を行いながら、確かな基礎・基本学力の定着
		○個に応じた指導	○個に応じた指導を行うための実態把握と、それに基づいた指導の工夫(補充・個別指導の時間の活用)
教育活動	○人権教育	○人権教育を全教育活動の中で進めることによる人権意識の向上および確かな人権感覚の育成	
	○健康教育	○地産地消、作物栽培、高学年の「弁当の日」の設定、食に関する意識・習慣の向上等、健康な生活を創る健康教育の促進	

成果と課題	評価	改善策・向上策
○「手良小共育プラン」を提唱し始めてから5年目を迎えた。学級懇談会では保護者と共に児童の育ちを考え直す良い機会となっている。また、全校行事や全校活動、各学級活動における諸活動等で、学校目標を常に意識したねらいが設定され、その具現に向けて実施することができた。	A b	○「手良小共育プラン」への取り組みを、学校と家庭が協力して更に充実させたい。また、地区の役員や保護者をとおして、手良地域の皆様にも知って頂き、手良地区全体で子どもを育てる雰囲気を作りたい。 ○「手良小共育プラン」を更にわかりやすい内容としていきたい。
○「手良小共育プラン」を地域の役員の皆様にも周知し、協力を依頼した。	A b	○行事の実施時期を大幅に見直した。行事の内容についても再検討し、子どもたちにとって無理なく充実した学習となるようにしたい。 ○平成30年度からの英語教科化導入に向けて、来年度は日課等を検討していきたい。
○運動会の時期を春にするなど暑さへの対応、校内マラソン大会へ向けての計画的体力づくり、「秋の自然に親しむ日」での縦割りグループ活動等、児童の実態に即して実施することができ、やり遂げる喜びや協力することの良さ等を感じることができた。	A b	○授業のユニバーサルデザイン化をさらに推進し、だれもがわかる授業を展開したい ○ICTを利用した新山小との遠隔合同授業を他学年にも広げ、コミュニケーションへの意欲を高めていきたい。
○運動会を春、音楽会を秋にして2年目となる来年、意見を聞きながら3年目の検討に備えたい。	A b	○通常学級と特別支援学級の担任との連携を深め、更に効果的な支援ができるようにしていきたい。また、通常級の児童の中で困難を抱えている児童については、早めに教育相談を行い、より良い教育環境を保護者と共に考えていきたい。
○「授業のユニバーサルデザイン化」に取り組み、教材、発問や板書を工夫したことにより、子どもの興味関心が高まった。	A b	○4、5年の標準学力検査・県PDCA学力向上サイクル事業やNRT等の学力検査を全校で実施し、その結果をもとに、児童の学力向上の方策を探していきたい。
○ICTを利用した新山小との遠隔合同授業で相手に伝わりやすい表現法を考えるようになり、コミュニケーション力を高めようとする気持ちが育ってきた。	A b	○縦割り班である仙丈グループによる「仙丈の時間」は、人権教育を進める上でも有効な活動であったと思われる。この活動を継続的に実施しながら、更に豊かな人間関係づくりに努めたい。
○特別支援教育コーディネーターを核として校内支援委員会を随時開催し、配慮を要する児童への支援が充実してきた。	A b	○児童会による挨拶運動は、例年重点に掲げられてきている。地域の方々からは「挨拶がよくできるようになった」という感想が寄せられているので、挨拶を通じて相手を思う気持ちなどの人権教育を更に育んでいきたい。
○市の学力向上支援ボランティアの方に全学年算数の授業の個別学習支援に入ってもらい、躓く児童への支援が以前より充実してきた。	A b	○お昼の放送で毎日児童会給食委員会が給食メニューについて、保健委員会が健康に関わる放送を行っている。こうした子どもの活動を大切に、健康についての意識の向上を図ってきたい。
○標準学力検査や県PDCA学力向上サイクルでの分析を行い、学力の傾向を把握し、授業展開や授業での個別指導に生かしたり、気になる児童についての懇談を行ったりして、学力の向上への成果が見られた。	A b	
○仲良し旬間を年間2回実施した。「お互いのよさを見つける・認めること」をテーマに、人権意識を高め、感謝の心や助け合うことの大切さ等、対人関係の高まりが見えてきた。	A b	
○いじめへの対応は、些細な言動や勘違いからいじめに発展し、時には命をも奪う怖さを理解し、自分は決していじめはしないという決意が持てるようにした。また早期発見、早期対応のために職員の情報交換の場を頻繁に設定し、いじめの発生防止に努めることができた。	A b	
○給食に自分たちで栽培した食材を提供する機会があり、食に関する関心が高まってきた。また、給食週間では、地産地消の食材を栽培している人等、給食に関わっている人々を紹介したり、「お弁当の日」での5・6年生児童による弁当作りを実施したりすることで、料理してくれる人の気持ちを考えたり食のバランスを考えたりすることができた。	A b	

		○体づくり	○丈夫な体を作るための学習活動の計画や活動の場の設定	○「仙丈の時間」では、縦割りのグループで楽しみながら体づくりができた。また、マラソン大会に向けて走り込みを休み時間にも行ったり、運動会に向けて技を身につけられるように自主的に取り組んだりするなど、外遊びや体を動かすことができている。 ○休み時間には、校庭でサッカー、体育館でドッジボール、広場では縄跳びに興じている姿が多く見られた。スポーツに親しむ機会が増えている。	A b	○「仙丈チャレンジタイム」は、多くの子どもが楽しみにしており、意欲的に活動できている。この時間で行った内容が児童の日々の遊びや運動の中で活かせるようにしていきたい。 ○休み時間に体を動かして遊ぶ児童とそうではない児童の差がある。また冬場の校庭が使えない時期は運動量が減る。その対策を児童会とのタイアップも含めて検討していきたい。
生徒指導		○指導体制	○望ましい生活習慣や清掃活動、朝の活動の工夫等、児童の規範意識を高めるための取り組み	○参観日に保護者を対象に「インターネット安全講習会」を開催した。参加する保護者も多く、意識が高まった。 ○児童会が「挨拶運動」や「廊下歩行」に主体的に取り組んでいる。「あいさつ」については地域の方から「良い挨拶ができている」と評価していただいた。	A b	○インターネットの正しい使い方の指導については計画的に実施したい。保護者対象の講習会や児童対象の指導を計画したい。 ○時間を意識した取り組みや縦割り活動を組み入れた清掃活動、児童会による自己点検活動など、規範意識を一層高める活動を進めたい。
		○教育相談	○スクールカウンセラーや子どもと親の相談員、外部関係者等との連携による、いじめや不登校等の早期発見や対応	○課題解決に向けて、職員同士で連絡を取りながら児童としっかり向き合い、保護者やスクールカウンセラー、子どもと親の相談員と連携を密にして取り組み、いじめ、不登校児童の早期対応、特別な支援を必要とする児童への継続的対応ができた。 ○不登校児童については、子と親の相談員等の関わりにより、長時間ではないが学校に登校できる日がかなり増加した。	A b	○職員と不登校児との信頼関係を更に深め、不登校児ができるだけ登校できる状況を構築したい。 ○不登校や問題行動を起こす児童ばかりでなく、困り感を抱えている児童を早期発見し、早めに対応できるように、研修を深めていきたい。
安全		○登下校時における安全確保	○「子どもの安全見守り隊」をはじめとする地域一体となつての児童の安全確保	○下校時刻のお知らせや学校からのお便り等を通して、PTA当番巡視や子どもの安全見守り隊への支援をお願いしたり、保護者の協力を得たりしながら、児童の登下校時における交通安全面や不審者遭遇対策についての安全確保に努めてきた結果、現在までに登下校時の事故や事案の発生が本年度もなかった。	A b	○不審者に対する児童の意識は高い。不用意に不安をあおることにならないよう注意しながら、自分の身を守る方法を身につけさせたい。 ○地域の方々や行政の方ともこれまで以上に連絡を取り合い、より安全な地域としたい。
		○危機管理体制の整備	○危機管理マニュアルに沿った避難訓練実施、災害時マニュアルの見直しや作成	○火災訓練（2回）、地震防災訓練（1回）、不審者避難訓練（1回）のどの訓練にも真剣に取り組め、児童自らが自らの命を守るという意識に立って訓練を行うことができた。 ○本年度は市総合防災訓練に参加し、保育園や地域の方と共に防災を学ぶことができた有意義だった。	A b	○訓練方法を更に見直し、火災や地震、不審者対応避難訓練を実施する中でより速く安全な避難ができるように質を高めていきたい。 ○災害対応マニュアルを、現状に合わせて修正をするなど、常に使用しやすいように整備していく。
		○安全指導	○登下校時の歩行指導や交通安全教室の実施等による交通安全教育の徹底	○子どもの安全見守り隊の方との対面式や防犯教室、交通安全教室等実施し、児童の安全に対する意識を高めることができた。 ○集団下校では、毎日安全係が指導の声がけをしてきた。高学年への指導が徹底され、班長が班をしっかりとまとめ安全な登下校ができた。	A a	○見守り隊はメンバーを募集し、さらに多くの地域の方々に見守っていただけるようにしたい。 ○下校後、職員によるパトロールを実施したが、今後も油断しないよう短時間でも継続していきたい。不審者等出没の情報も少なくない中、安心・安全メールで保護者に知らせ、更に協力を依頼できる体制を整えたい。
学校運営	地域との連携	○家庭地域との連携	○授業、読み聞かせ、食育等の中で保護者や地域の教育力を最大限に活かす取り組み ○手良小共有プラン作成・活用	○「あいの会」（地域の生産者グループ）の方や手良の生産者や地域の方々、読み聞かせボランティアの方、畑作稲作の指導をして下さる地域の方々等の支援により、地域との結びつきを感じながら意欲的に学習に取り組むことができた。 ○手良小共有プランは5年目を迎え、家庭だけでなく地域の方々と共に育てる基盤を作ることができた。	A b	○今後も地産地消を基本にして、地元で採れる旬の作物を活用していきたい。 ○手良小共有プランの検証を行い、より焦点化した項目・内容に修正していきたい。 ○外部講師として保護者や地域の方に計画的に来校していただき、体験学習がさらに充実するようにしたい。
		○学校情報の発信	○学校だより「きらら」、学年だより、通知票・個々の連絡帳の充実	○月1回発行の学校だより「きらら」や学年だより、各種お便りを定期的に発行したり、年3回の通知票や日々の連絡帳を通して、学校での様子について家庭や地域へより一層ご理解いただくよう努めてきた結果、学校と保護者、地域社会との信頼関係を保つことができた。 ○手良小学校のホームページでも情報を発信する事ができた。	A b	○ホームページの更新を積極的にを行い、これまで以上に情報を発信したい。 ○学校だよりや学級だより等の内容の工夫、連絡帳の活用等により、家庭や地域とのつながりを一層深めていきたい。
		○自主的なPTA活動	○学校主導から保護者主導になるようなPTA活動	○「PTA資源回収」や「PTA作業」、「水難救急法講習会」、「手良地区講演会」、「親子ふれあい活動」、「親子ふれあいトンカチ教室」等の活動では、主体的な取り組みが見られた。それぞれの部会では役員さんを中心にPTA組織の一員としての自覚と責任を持って活動をする姿が見られた。また地区毎自主的に下校パトロールを計画・実施している。 ○PTA会長さんからの提案で、「親子ふれあい活動」の内容を見直し、キャリア教育の視点から活動を仕組んだり、保護者向けのインターネット安全講習会を行ったり、画期的な活動もいくつも見られた。	A b	○キャリア教育の視点を取り入れた「親子ふれあい活動」は一年だけでやめてしまっただけは惜しいという意見をいただいている。検討しながら自主的な活動になるよう共に考えていきたい。 ○「インターネット安全講習会」は好評で、保護者からはこうした研修を継続したいという要望が出ている。こうした声を大切にして、来年度の行事を計画したい。
研修		○児童理解研修	○児童理解を深めるための児童理解研修や「仙丈の時間（教師と児童が共に遊ぶ時間）」の活用	○児童理解を深めるための研修として「Q-U研修」や「仙丈の時間（教師と児童が共に遊ぶ時間）」を活用した。 ○職員研修で伊那養護学校職員を講師として、「授業のユニバーサルデザイン化」を学び、児童の特性について理解を深めた。	A b	○配慮を要する児童の個別の教育支援計画を作成したが、来年度はその見直しを行いつつ活用するようにし、職員が共通理解して指導できるようにする。 ○更に児童理解を深める研修を計画したい。
		○授業研修	○学習指導力や生徒指導力向上のための全教師の授業公開、児童の姿の共通理解	○授業のユニバーサルデザイン化を視点とした授業改善を試みた。特に教育課程研究協議会の授業校として、2年生が体育の授業を公開し研究を深めた。 ○学習指導力や生徒指導力向上のための全教師の授業公開を行った。また、児童の姿の共通理解のための情報交換会を、毎回の職員会議の中で時間を確保した。	A b	○本年度はユニバーサルデザイン化の勉強会を開催した。来年度はその研修に加え、ICT研修、学力向上研修を行ってきたい。 ○指導案を簡略化して取り組みやすくする等の工夫をしながら、一人一公開授業を継続したい。
		○職員研修	○全教師の自己課題による研修の推進	○自己課題達成のために計画的・自主的に研修に取り組み、自らの指導力の向上に努力することができた。 ○校外の専門機関などで行われる授業・生徒指導・マネジメント等の研修に積極的に参加し、研修を深められた。	A b	○26年度から「授業のユニバーサルデザイン化」の研究を行ってきた。その考え方を生かし、今後も研修を深め、全ての児童がわかる授業を目指して研修を深めたい。